

令和5（2023）年度

洗足こども短期大学
自己点検・評価報告書

令和6（2024）年6月

目次

はじめに	1
1. アセスメントポリシー各区分の点検	
1) アセスメントポリシー	2
2) 入学前・入学時	3
3) 在学中	4
4) 卒業時・卒業後	7
2. 令和4（2022）年度改善・対応を要した事項等	9
3. 令和5（2023）年度以降改善・対応を要する事項等	11

【資料】

1. 入学前・入学時アセスメント資料

基礎力リサーチ報告会資料、基礎力リサーチ、「新入生の皆様へのアンケート」、入学試験結果
学生数 定員・志願者・合格者・入学者推移 2024年度入試進捗状況

2. 在学中アセスメント資料

GPA評価 2023年度短大実習報告 授業改善のためのアンケート 成績分布 退学率・休学率
履修カルテ

3. 卒業時・卒業後アセスメント資料

学位授与率 就職率・進学率 人材ニーズ調査 「卒業する皆様へのアンケート」 免許資格取
得率 履修カルテ

はじめに

令和 5（2023）年度の自己点検・評価に関しては、令和 5（2023）年 5 月に最終的に制定した「アセスメント・ポリシー」に基づき、学習成果に関する評価を「入学前・入学時」「在学中」「卒業時・卒業後」に分けて、定めた評価項目による検証を実施しました。

また、令和 4（2022）年度の自己点検・評価報告書にて纏めた「令和 5（2023）年度に改善・対応を要する事項等」につき、改善結果・進捗状況等を検証の上記載し、併せて「令和 6（2024）年度に改善・対応を要する事項等」に関して、要改善・対応内容等を示しました。

短期大学を取り巻く環境は、引き続き大変厳しい状況にありますが、本学では教育の質保証のさらなる向上の観点から、令和 7（2025）年度の入学者より入学定員を減員することを決定し、学則変更の届出等の手続きを進めています。

また、短期的のみならず中長期的な視点も持ちながら、経営基盤の維持・強化を図り、教育研究活動の質保証の継続的な改善・向上に向けて全教職員で取り組んでまいります。

令和 6（2024）年 6 月

洗足こども短期大学 自己点検・評価委員会 委員長
洗足こども短期大学 学長 落合 俊文

洗足こども短期大学 「アセスメント・ポリシー」

洗足こども短期大学では、教育の質を保証する3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を基礎に評価指標を定め、学生の学習成果を可視化する目的で、以下の通り、アセスメント・ポリシーを定めます。

	入学前・入学時 アドミッションポリシー に基づく検証	在学中 カリキュラムポリシーに 基づく検証	卒業時・卒業後 ディプロマポリシーに基 づく検証
機関レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験結果 基礎カリサーチ テスト 新入生の皆様への アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 退学率、休学率 GPA 分布 履修カルテ 学外実習評価 	<ul style="list-style-type: none"> 学位取得率 就職率、進学率 免許・資格取得率 履修カルテ 卒業する皆様への アンケート 人材ニーズ調査 (原則3年毎実施)
教育課程レベル	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験結果 基礎カリサーチ テスト 新入生の皆様への アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 退学率、休学率 GPA 分布 履修カルテ 学外実習評価 	<ul style="list-style-type: none"> 学位取得率 就職率、進学率 免許・資格取得率 履修カルテ 卒業する皆様への アンケート 人材ニーズ調査 (原則3年毎実施)
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための アンケート 履修カルテ 成績分布 	

* 本学は単科の短期大学であるため、機関レベルと教育課程レベルの項目は重複する。

1. <入学前・入学時>

項目	現状	課題	必要とされる対応
入学試験結果	<p>(2022年度入試・2023年度入試・2024年度入試結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学試験合格率(合格者数/受験者数)は、2022年度～2024年度入試の順に、98.9%、99.5%、100.0%となっており、特に2024年度入試においては、全員入学の水準となった。 総合型選抜試験の実質的な合格率を示す認定率は、93.8%、93.1%、100.0%となっており、毎年度90%～100%の高い水準である。 入学定員充足率は、107.2%、78.4%、72.0%と毎年度低下を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者数の継続的な減少による入学定員充足率の低下に伴い、入学試験合格率はいわゆる全入の水準を引き続き示している。 上記により、入学を受け入れる学生の学力水準等を的確に把握し、2年間の短大生活で如何に育ていくかを引き続き検討していくことが大きな課題である。 併せて、アドミッションポリシーに沿って入学を受け入れる学生の質を保つためにも、適正な入学定員を設定することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学直後の5月に毎年実施する「基礎力リサーチテスト」(アセスメント・ポリシーの項目の一つ)のより有効な活用方法を検討し、入学後2年間の学習指導に活用していくことが引き続き重要である。 毎年入学前に実施している「入学予定者オリエンテーション」に関して、左記の課題も踏まえながら、引き続き更なる内容の向上を検討していく。 2025年度入学者から入学定員を250名から150名に減員すべく、2024年5月までに必要な学割変更申請および届出の手続きを行う。
基礎力リサーチテスト	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度平均点66.7点、2022年度66.1点、全国平均67.3点。例年通りの学力、全国平均とほぼ同程度。 指定校推薦入学者の平均67.5点、AO入試入学者の平均66.3点と選抜方法による学力差はないといえる(少数であるが一般入試平均は68.8点であった)。 2022年度1年生と比較し、60点以下の学生がやや減少した。 アンケートNo19「勉強の仕方がわからず不安である」に5択で「とてもあてはまる」12%、「まああてはまる」46%と回答。6割と多いが、全国平均と同程度であった。シラバス等にて見直しを示し、不安を解消したい。 2022年度1年生と比較し、高校時代(勉強量ピークと考えられる時期)に1日1時間以上学習していたと回答する学生の割合は増加した。 アンケートNo16「現在の授業時間以外での1日の平均学習時間」は0時間が2割。2022年もほぼ同様だったが2021年は1割であった。学習習慣のない学生が2割いることに注意していきたい。 モチベーションは二極化傾向にある。アンケートNo23「提出物を期日までに提出している」に5択で「とてもあてはまる」65%、「まああてはまる」35%と回答。他大学と比較し驚異的に良い回答であり、本学の特徴といえる。 アンケートNo39「将来、就きたい職業が決まっていない学生(70名)のうち、その理由」では、「自分には合わないと感じている」割合が17%と昨年の11%より上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> 50点以下の学生(26名/193名)は小学校低学年レベルの基礎的計算や文章読解力につまずきみられるため、授業にて注意を要する可能性がある。 「49点以下の学生(23名/193名)は3人に1人の割合で退学を検討する傾向がある」とのことなので、授業、面談等で様子を見ていきたい。 40点以下の学生(9名/193名)は、優先的なフォローが必要である。一般に退学意向が4割以上と高くなるとのことである。 2021年度、2022年度、2023年度でテスト得点の平均はほぼ変化なし。しかしながら、2023年度は得点のピークが2つとなっており、二極化傾向にあるといえる。 	<ol style="list-style-type: none"> 全体の15%弱の学生に、基礎的計算や文章読解力に難があり、全体の6割弱が「勉強の仕方がわからず不安」な状況であることを踏まえ、授業におけるフォローを実施することを検討する。具体的にはより伝わりやすいシラバス作成、課題の提出等の指示は複数回行う、小テスト等で授業内容理解不足を早期発見する等が考えられる。 学力・モチベーションそれぞれが二極化していることを踏まえ、要フォロー群には学習内容の理解促進、不安解消をすすめ、上位群にはより深い学びが実るような対応が求められる。学力やモチベーションが低下することによって免許資格の取得がかなわなくなる学生には、それでも退学防止のために別のグループ(プラスアルファとして保育を学ぶコース等)として、居場所を確保することも考えられるのではないかな。
新入生の皆様へのアンケート	<p>本学を選んだ理由の上位は、オープンキャンパスに参加して興味をもった67.5%(70.5%・70.3%)、学校の施設に魅力を感じたから51.3%(53.4%・59.7%)と半数以上の学生が回答。本学のイメージについては、88.0%(90.2%・91.9%)の学生が「音楽が盛ん」と回答している。また、本学に期待することのコメントは、コメント件数の半数以上が、ピアノや音楽・表現系をはじめとする「授業関係」のコメントとなっている。一方で76.4%(76.9%・74.8%)の学生が「授業・学習が理解できるか、ついていけるかどうか」と不安を感じている。また、友達や仲間ができるか、人間関係がうまくいけるかと56.0%(68.6%・52.3%)の学生が不安を感じている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 授業内容の充実。 「授業・学習が理解できるか、ついていけるかどうか」と不安を感じている学生へのサポート等が課題。 	<ol style="list-style-type: none"> 集計結果を教授会で報告し共有する。 入学前教育の更なる充実、活用。

2. <在学中>

項目	現状	課題	必要とされる対応
退学率・休学率	<p>【2020年度】在籍学生559名中 休学者3名 (0.54%) 退学者15名 (2.7%) 【2021年度】在籍学生589名中 休学者6名 (1.02%) 退学者21名 (3.6%) 【2022年度】在籍学生573名中 休学者6名 (1.05%) 退学者19名 (3.3%) 【2023年度】在籍学生455名中 休学者4名 (0.88%) 退学者13名 (2.9%)</p> <p>現時点では、休学に至るまではクラスアドバイザーが面談等を重ね、ときには保証人を交えて話し合いをもっている。手続き後は保証人にお任せし、退学の意向が出た際はクラスアドバイザーとの面談でその後の進路指導等を行って退学の意向を確認し手続きに移行している。</p>	<p>休学者と退学者の割合は変動していることは明らかだが、休学から復学または退学に至るケースについての分析はできていない。 休学中にできることはないかの検討が必要。</p>	<p>クラスアドバイザーからの聞き取りによって、休学中の対応について整理し、可能な対応について検討する</p>
GPA分布	<p>【2022年度入学生（1年次、2年次）の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPAは1年次平均、2年次平均ともに変化なし。（平均2.21→2.20） ・GPAの散らばりは、2年次になり多少小さくなった。（標準偏差.494→.429） ・1年次はGPA1.96以下が下位4分の1群、2年次はGPA1.94以下が下位4分の1群となる。 ・GPAの分布は、基礎力リサーチテスト結果（1年次の6月実施）と比較して成績良好群・不良群というほどには分かれなかった。 <p>【2023年度入学生（1年次）の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPAは1年次平均2.22であり1年前の1年生とほぼ同じ。（2022年度入学生の1年次は2.21） ・GPAの散らばりは、.45であり1年前の1年生とほぼ同じ。（2022年度入学生の1年次は.49） ・GPA1.98以下が下位4分の1群であり、1年前の1年生とほぼ同じ。（2022年度入学生の1年次はGPA1.96） <p>https://docs.google.com/document/d/1nd9N8yodikBU3N6XLOZfSppdL04ALeYN/edit</p>	<p>全体に GPAは成績良好群・不良群というほどには分かれておらず、全体に例年通りであるといえる。成績は期末試験にあらわれるような学業の定着度そのものだけではなく学業への意欲や態度を提出物や授業態度、出席率も考慮してつけられるものであるため、例年通りの結果となったことが考えられる。</p> <p>したがってGPA分布に関しては全体に大きく成績が下がる・上がることもなく、散らばりも変化がないことから、学生評価は安定的に実施されていると考えられる。</p>	<p>引き続き、成績評価の考え方を専任教員・非常勤教員で共有する。</p>

2. <在学中>

履修カルテ	<p>自己点検・評価委員会とカリキュラムワーキンググループのメンバーで打ち合わせを行い、2023年度生から継続的な数値を比較してみていく体制を整えている。</p> <p><回収率>2021年度生(1年次): 96.58%、2022年度生(1年次): 0%、2023年度生(1年次): 97.88%</p> <p><2023年度生(1年次)のディプロマポリシー(DP)6項目に対する達成度></p> <p>順に「全くできていない」「あまりできていない」「ある程度できている」「おおむねできている」の回答率</p> <p>DP1: 0.0%、5.4%、60.0%、34.6%</p> <p>DP2: 0.0%、10.3%、73.5%、16.2%</p> <p>DP3: 0.0%、16.2%、63.2%、20.5%</p> <p>DP4: 0.0%、24.3%、67.0%、8.6%</p> <p>DP5: 0.5%、9.2%、57.8%、32.4%</p> <p>DP6: 1.6%、23.8%、58.4%、16.2%</p> <p>全項目において「ある程度できている」と自己評価した学生が半数以上で最も多かった。</p>	DP6項目に対する達成度において、特に、「全くできていない」と回答された要因までは明らかでない。	学生指導の参考としてクラスアドバイザーや実習統括に情報を伝える。
授業改善のためのアンケート	<p>SENZOKUポータルより前期および後期の2回、【授業改善のためのアンケート】を実施(1年生は第14~15回目、2年生はシステムの都合上、第13~第14回目的の時期)。2022年度以降、【レッスン】のバージョン有り。</p> <p>2023年度よりSENZOKUポータルのシステム変更に伴い、学生のアンケート回答を受け、各授業毎に授業担当教員から、履修学生全体に向けたコメントのフィードバックが可能となった。アンケート質問項目では、数値データに留まらず学生の意見や感想を拾えるよう、自由記述欄で【この授業で良かった点】【この授業で改善してほしい点】の2つを尋ねるように変更した。</p> <p>【学生のアンケート回答率】の推移は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度前期 全体09.66% (1年生77.41%、2年生55.95%) 後期 全体56.17% (1年生60.93%、2年生45.83%) ・2022年度前期 全体63.38% (1年生76.79%、2年生44.97%) 後期 全体58.40% (1年生66.55%、2年生44.79%) ・2023年度前期 全体73.05% (1年生87.52%、2年生56.03%) 後期 全体66.98% (1年生81.25%、2年生46.98%) <p>レッスン 全体41.10%</p> <p>【集計結果閲覧後の教員のコメント入力率】は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度前期: 85% ※実際の公開は84% 後期: 82% ※実際の公開は77% レッスン: 51% ※実際の公開は49% <p>集計結果および教員によるコメントは、授業担当教員および受講した学生に対しSENZOKUポータルを通してアンケート実施の約1か月後から掲示。掲示期間は前期後期とも約3~4か月。【学生の掲示開封率】は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度前期: 25% 後期: 36% ・2023年度前期: 26.5% 後期: 35.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・【授業改善のためのアンケート】の2023年度の回答率は、前年度と比較し前期後期ともに上昇した。特に1年生の回答率は、2023年前期後期ともに、前年度より10%以上、上昇した。しかし、2年生の回答率は、2023年度前期では、前年前期より10%以上上がったものの、2023年度後期では、前年後期より2%程度の上昇に留まる。前期より後期で回答率が下がり、1年生より2年生で回答率が低い点が課題である。 ・従来、指標としてきた「掲示開封率」には、二つの課題がある。一つには、掲示の設定である。洗足メールにも同じ掲示文が配信される設定のため、メールの文章読み、掲示を開封しなかった場合が多数存在すると考えられる。二つには、授業評価結果の参照の仕方である。学生が、自身が履修した授業のアンケート集計結果と教員からのコメントを閲覧するためには、SENZOKUポータル内の「授業評価結果照会」のタブより、自身が履修したなかで結果を参照したい授業のもの一つずつ開けて行く作業になる。よって、①掲示による自動配信メールの参照、②SENZOKUポータル内の掲示の開封、③SENZOKUポータル内の授業評価結果の参照が、それぞれ指標としての曖昧さを残す。教員の掲示開封率についても、上記の①②の点で、指標としての曖昧さを残す。 ・教員は、担当授業毎の学生に向けたコメント入力に当たり、必ず【授業改善のためのアンケート】の集計結果を閲覧する手順を踏む。そのため、「掲示開封率」ではなく「コメント入力率」を新たな指標としたが、コメント入力済にも関わらず、学生に公開できなかったケースが生じた。コメント入力の際、最後に「コメントを公開する」欄に必ずチェックが必要だが、チェック漏れがあると、SENZOKUポータルのシステム上、事務局での操作はできず、コメント入力済にも関わらず、「コメントを公開」できない状況があった(2023年度前期1%、後期5%、レッスン2%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【授業改善のためのアンケート】の主旨について、また、2023年度から授業担当教員より担当授業のクラス毎へのフィードバックとしてSENZOKUポータルからのコメント入力を実施すること、学生が「双方向的」と感じられるような意義のあるアンケートとなるよう、専任教員のみならず非常勤講師およびピアノ講師への周知を行い、集計結果から教員が具体的に授業改善に活かしていくためのサイクルについて、意識づけを行った。 ・実施の主旨については、授業改善のためのアンケートの最初に記載するとともに、各担当教員よりアンケート実施時に受講学生に改めて説明をした。 ・学生のアンケート回答率は、更なる上昇を目指す。 ・授業担当教員より担当授業のクラス毎へコメント入力を実施したこと、アンケート内の自由記述欄を変更したことが功を奏した。教員は、担当授業の集計結果を、各学期の終了後の比較的早い時期に閲覧し、自身が担当した授業での良かった点・改善点が、学生から具体的に寄せられることで、授業への振り返りが習慣化し、授業改善への意識が高まったと思われる。また、学生側は、公開された授業改善のためのアンケートを閲覧することで、自身の思いが伝わったと感じ、双方向と感じられる意義あるアンケートとなったと推察する。 ・一方、入力されたコメントには、各教員で記載内容に差が生じた。自由記述欄に寄せられた学生のコメントだけでなく、例えば「学生の私語に対して教員が注意を行ったか」といった数値データの分析が十分でないまま、コメントがなされている状況があった。2023年後期より、コメントの文例を教員全体に情報共有したが、今後、教員からのコメントは、履修時に学生がどのような学びを重ねたのか、履修を終えた後、保育現場や社会でどのように活かして欲しいのかといった記載も有効であると考え、模索していく。 ・PDCAサイクル、アセスメントの観点で、掲示開封率に変わる指標を探っていく。

2. <在学中>

<p>学外実習評価</p>	<p><2022年度入学生（2024年3月卒業）の分析> 2023年度に実施した実習の評価では、項目別の中では「勤務」の評価が「教育実習Ⅱ」では前年度の実習生より0.07ポイント、「保育所実習Ⅱ」では0.05ポイント下がっている。 ・また、2022年度生の実習の項目別評価では、1年次の実習から2年次の「保育所実習Ⅱ」までに評価を上げていくことはできていた。しかし、1年次の「教育実習Ⅰ」から「保育所実習Ⅰ」においては、「勤務」の評価の落ち込みが0.17ポイントと目立っていた。 ・入学年度別の総合評価では、「教育実習Ⅰ」は過去4年間ではあまり差がつかない状況であった。しかし、1年次の終わりに実施する「保育所実習Ⅰ」の評価では、2022年度生は、評価が3.46ポイントと過去4年間では1番低い評価となった。但し、最終的には2年間の実習の積み重ねで、2年次の「保育所実習Ⅱ」では、評価を過去4年間で2番目に高い3.57ポイントに上げることができた。 ・2年次に取り入れている「習熟度別コース制」の項目別評価では、「教育実習Ⅱ」ではAdvanceコースとBasicコースでは大きな差が見られる。特に「日誌」や「指導」の評価については、その差が大きい。しかしながら、「教育実習Ⅱ」と「保育所実習Ⅱ」を比較すると、その差は減少することができた。</p>	<p>・日誌を含めた「書く力」の強化のため、「保育者のための文章表現」「教育課程論」と実習指導の連携を図り、着実に成果は上がりつつあると思われるが、引き続き毎年度検証を行い、対応策等の検討を行っていく必要がある。 ・2019年度より、2年次の実習指導においては、「習熟度別コース制」を実施している。また、2022年度より各実習へ参加するための条件として、試行的にGPA基準を新たに導入している。これらの試みの成果についても、引き続き「学外実習評価」等による検証を行い、対応策の検討を行う必要がある。 ・「習熟度別コース制」においては、Basicコースの力の底上げが課題である。「勤務」「意欲」の評価に関しては、モチベーションを保てるよう学生への指導が特に重要である。</p>	<p>・近年の保育者を志す受験生の減少に伴う受験志願者数の減少による、入学試験の合格倍率の低下の下、入学を受け入れる学生を短大生活2年間で如何に育て、質の高い保育者として送り出していくかを最大の課題と捉え、教職員の協働による学生への更なるきめ細かな対応を引き続き行っていく必要がある。 ・そのためにも、「学外実習評価」を左記のように継続的に検証し、対応を行っていくことが重要である。 ・Basicコースに関しては、能力の底上げが課題であるが、現状取り組んでいる個別の面談や指導を引き続き多く取り入れ、実習指導の更なる工夫や実習の再チャレンジの実施など様々な試みを継続していくことが大切である。 ・併せて、2022年度に策定したカリキュラムツール等を活用し、各科目間の連携を図りながら授業を展開することで、実際の実習においても学生がより「実践力」「表現力」「協働力」を備えて臨めるようにするという認識を引き続き教員間で共有していく。</p>
<p>成績分布</p>	<p>・2023年度の科目別成績分布に関して、「D」（不合格）の比率は、実習関連を除き、0%～7%の範囲に収まり、大半は0%もしくは1%で、2%は2科目、7%は1科目のみであることから、概ね妥当な水準である。 ・評価基準の目安として伝えている「S」評価（評価対象学生の3%以内）、「A」評価（S評価を含め対象学生の40%以内）に関しては、実技系科目を除き概ね妥当な水準ながら、一部科目で「S」評価の学生の割合が多い科目がある。</p>	<p>・左記の通り、2023年度の科目別成績分布に大きな問題はないが、3科目のみ「S」評価の割合が10%を超えていた科目がある。該当科目は、1年生後期の「保育内容（人間関係）」、2年生前期の「子ども家庭支援論」、2年生後期の「社会的養護Ⅱ」である。 ・また、1科目だけ「D」（不合格）の比率が7%と比較的高い科目があった。該当科目は1年生後期の「英語（外国語コミュニケーション）」であった。</p>	<p>・左記3科目「保育内容（人間関係）」、「子ども家庭支援論」、「社会的養護Ⅱ」に関して、各クラス別の成績分布を確認し、必要に応じてクラスの担当教員に状況の確認を行い、2024年度の成績評価について改善を図ることとする。 ・左記1科目「英語（外国語コミュニケーション）」については、オンデマンド授業を行っている特殊な形態であり、2024年度は引き続き状況を注視することとする。</p>

3. <卒業時・卒業後>

項目	現状	課題	必要とされる対応
学位取得率	<p>【2020年度】卒業予定者271名中 学位取得者265名 (98%)</p> <p>【2021年度】卒業予定者276名中 学位取得者263名 (95%)</p> <p>【2022年度】卒業予定者304名中 学位取得者294名 (97%)</p> <p>【2023年度】卒業予定者257名中 学位取得者249名 (97%)</p>	4年間大きな変化はない。	クラスアドバイザーによる指導、二年のアドバイザーによる進路就職支援を丁寧に行う。
就職率・進学率	<p>1996年度から2023年度まで、卒業生の就職率は100%を維持している。卒業時の保育系就職者数の割合は、以下の通り経緯している。</p> <p>【2020年度】卒業生265名中保育系就職者249名 (94.0%)</p> <p>【2021年度】卒業生263名中保育系就職者218名 (82.9%)</p> <p>【2022年度】卒業生294名中保育系就職者255名 (86.7%)</p> <p>【2023年度】卒業生249名中保育系就職者219名 (88.0%)</p> <p>2023年度の保育系就職者219名の内訳は、保育所123名 (56.2%)、幼稚園84名 (38.3%)、施設9名 (4.1%)、その他の保育系就職者3名 (1.4%) である。保育所就職者は、2018年度47.9%→2022年度54.1%と増加、幼稚園就職者が減少している傾向にあり、今年度も同傾向である。</p> <p>一般企業への就職は、2020年度3名 (1.1%) →2021年度8名 (3.0%) →2022年度11名 (3.7%) →2023年度15名 (6.0%) であり、全体としては少数であるが年々増加傾向にある。一方、進学者は、2020年度7名 (2.6%) 2021年度15名 (5.7%) 2022年度10名 (3.4%) 2023年度7名 (2.8%) と一定数を維持している。</p>	<p>2023年度まで「進路就職サポート室」に担当事務職員が常駐し、進路就職の相談指導を行ってきたが、今年度から2年次のクラスアドバイザーによる相談指導体制となる。新体制下でのきめ細かい支援が期待される。</p>	<p>クラス全学生の進路就職について、各クラスに「キャリアカウンセリング」の時間を週1回設定し、クラスアドバイザーが就職に関するガイダンスや面談等の時間として活用する。一般就職、進学については事務局との連携のもと支援する。学生基本情報シートをドライブで共有し、学生の就職活動状況を把握、きめ細かいキャリア支援につなげる。</p>
免許・資格取得率	<p>卒業時の免許資格取得率は以下の通りである。保育士資格もしくは幼稚園教諭二種免許取得者については90%を超えているが、両免許資格取得者は2021年度から85%前後である。</p> <p>【2020年度】保育資格取得者256名 (96.6%) 幼稚園教諭二種免許取得者254名 (95.8%) 両免許資格取得者247名 (93.2%)</p> <p>【2021年度】保育資格取得者239名 (90.9%) 幼稚園教諭二種免許取得者241名 (91.6%) 両免許資格取得者226名 (85.9%)</p> <p>【2022年度】保育資格取得者269名 (91.5%) 幼稚園教諭二種免許取得者265名 (90.1%) 両免許資格取得者251名 (85.4%)</p> <p>【2023年度】保育資格取得者219名 (87.9%) 幼稚園教諭二種免許取得者216名 (86.7%) 両免許資格取得者203名 (81.5%)</p>	<p>認定こども園の増加により、両免取得者のニーズが高く、保育者として両免は必須と考え、すべての取得率の目標を90%としてきたが、両免許資格取得者は2021年度から85%前後である。全ての数字を90%以上と設定しているが、2023年度は81.5%であり、資格免許取得者の割合は下がってきている。</p>	<p>入学当初には全員が両免許資格の取得を目指しているが、実習で挫折する学生が一定数いる。今後、資格免許取得率を向上させることも含めて、実習指導と進路就職をより緊密に連携させる体制を構築するため、実習指導教員と進路就職WG (クラスアドバイザー) が連携して指導を行う。</p>
履修カルテ	<p><回収率> 2022年度生(2年次) : 97.64%。 <2022年度生(2年次)のディプロマポリシー(DP)6項目に対する達成度></p> <p>順に「全くできていない」「あまりできていない」「ある程度できている」「おおむねできている」の回答率</p> <p>DP1 : 0.8%、3.2%、46.0%、50.0%</p> <p>DP2 : 0.0%、6.0%、57.3%、36.7%</p> <p>DP3 : 0.4%、4.0%、54.0%、41.5%</p> <p>DP4 : 0.0%、6.5%、69.8%、23.8%</p> <p>DP5 : 0.0%、3.6%、44.0%、52.4%</p> <p>DP6 : 0.4%、3.6%、62.5%、33.5%</p> <p>DP1とDP5については「おおむねできている」と自己評価した学生が半数を満たして最も多かった。その他の項目については「ある程度できている」と自己評価した学生が半数以上であった。</p>	<p>1年次と2年次の2年間の結果の推移を把握する必要があり、継続的なデータ収集を要する。</p>	<p>今後のデータ収集を継続していき、自己点検・評価委員会とカリキュラムワーキングが連携してデータ収集を行う。</p>

3. < 卒業時・卒業後 >

卒業する皆様へのアンケート	授業内容や教員の対応について、77.2% (80.1%・89.3%) の学生が概ね満足と回答。事務局の対応は94.4% (95.5%・96.4%)、施設・設備は88.4% (92.6%・92.5%) の学生が概ね満足と回答。また、2年間の満足度10点満点中、平均が7.8点 (8.1点・7.7点) と全体的に満足度が高い結果になっている。	全ての設問において、「満足」と回答する学生5割を目標にする。 【5割以下の項目】 2023年度：「教員や授業内容」「施設・設備」「入学を勧めたいか」 2022年度：「教員や授業内容」「入学を勧めたいか」 2021年度：「教員や授業内容」	集計結果を教授会で報告し共有する。 「学生対応」や「授業内容」の更なる充実を図り満足度の向上に努める。
人材ニーズ調査	・2023年度実施なし	-	・次回2024年度実施予定

令和5（2023）年度改善・対応を要した事項等

改善・対応を要した事項等	改善結果・進捗状況等
<p>基準Ⅰ－A 現行の自治体との連携について、協定書締結の必要性を検討する。高大連携の活動を進めていくための協定書締結等についても検討を進める。</p>	<p>高津区との連携はあるが、協定書締結はしていない。</p>
<p>基準Ⅰ－B 卒業生が勤務する幼稚園保育所へのアンケート（人材ニーズ調査） 2024 年度実施に向けた準備作業（アンケート項目の精査、回収率向上のための工夫等を含む）</p>	<p>2024 年度実施予定 現在進路就職 WG と事務局で項目の精査作業を進行中。</p>
<p>基準Ⅰ－B 非常勤職員に対する SD もしくは FD 研修の実施 基準Ⅰ－C 非常勤職員との情報共有・共通認識の醸成 2023 年度より、非常勤教員の問い合わせ窓口としてカリキュラム WG 教員を指名し、対応する。また、同じ科目を担当する専任教員と非常勤教員の連携をより強化し、情報共有を図る。</p>	<p>2022 年末に 2023 年度非常勤講師に対するオンライン説明会を行い、授業の進め方などを説明した。使用した資料はドライブで共有した。 非常勤教員の問い合わせ窓口としてカリキュラム WG 教員を指名し対応した 同じ科目を担当する専任教員と非常勤教員の連携をより強化し、シラバス、教科書選定、試験などについての協議、情報共有を徹底した。</p>
<p>基準Ⅰ－C 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れるため、高等学校訪問や出張授業の際に聞き取った意見を教職員で共有し、年度末にはまとめて自己点検・評価活動に活用する</p>	<p>高等学校訪問や出張授業の際に聞き取った意見をドライブシート（外部授業（出張・模擬）2023）で共有し、教員間の意識向上を図った。これらのデータは入試 WG でとりまとめ、入試センターと共有、年度末の教授会で報告した。次年度に向けてアンケート項目の改定等も検討している。</p>
<p>基準Ⅰ－C アセスメントポリシーの運用とその活用 アセスメントポリシーに沿った自己点検を実施し、その活用を図る。</p>	<p>アセスメントポリシーに沿った自己点検を実施している</p>
<p>基準Ⅱ－A 履修カルテから見える、「DP 達成度の傾向」を教授会で報告共有する。</p>	<p>自己点検評価委員会とカリキュラム WG の連携によって、継続的に数値を追う体制を整備した。2021 年度から 2023 年度のこれまでに収集したデータから見える「DP 達成度の傾向」を 2024 年 6 月以降の教授会で報告予定。</p>
<p>基準Ⅱ－A GPA 活用手段の強化 同一科目を担当している教員間で、授業態度、課題、試験内容、成績基準等についての共有や確認を行い、GPA との関連を探り、GPA の低下傾向に対策を施す。</p>	<p>同一科目を担当している教員間で、授業態度、課題、試験内容、成績基準等についての共有や確認を行った。 GPA 不芳学生については、クラスアドバイザーを中心に面談を行い、GPA 向上を含めた総合的支援を行った</p>
<p>基準Ⅱ－A コミュニケーション力の育成など</p>	<p>コミュニケーション力の育成など汎用的能力の測定について</p>

<p>汎用的能力の測定についての方法を確立し、測定データを可視化する</p> <p>アセスメントポリシーに沿った自己点検によって、その方法を検討する。前年に引き続き、実習報告による日誌の評価項目（順応性協調性など）をはじめ、既存の評価項目の応用を第一に考え、測定の方法を確立していく。</p>	<p>ての方法を確立していない。</p>
<p>基準Ⅱ－A カリキュラムツリーの運用を開始し、科目間の連携を図りながら授業を展開する。</p>	<p>運用を開始し、科目間の連携を図りながら授業を展開したFD活動の中で、ツリーを使用し、以下のテーマをもって科目間の連携を図った</p> <p>①シラバスの検討</p> <p>②実習との往還的な学びとは</p>
<p>基準Ⅱ－B 学生の社会的活動の評価を行う方法として、学生のボランティア等の社会的活動に関し、表彰を行うための評価方法等に関して検討し、確立する（前田記念賞に代わるもの）</p>	<p>特に進展はない。</p>
<p>基準Ⅱ－B 入学予定者の学力水準を的確に把握し、前年度の「新入生の皆様へのアンケート」の結果等も参考に、入学予定者オリエンテーションの内容を精査し、質の向上を図る。</p>	<p>入学予定者の学力水準を的確に把握し、前年度の「新入生の皆様へのアンケート」の結果等も参考に、入学予定者オリエンテーションの内容を精査し、質の向上を図った</p>
<p>基準Ⅱ－B 基礎力リサーチテストを継続して行い、その結果を授業展開にどのように活かすかを検討する。</p>	<p>基礎力リサーチテストを継続して行った。2023年度の結果は、例年と大差なく全国平均レベルであった。</p> <p>また、結果を授業展開にどのように活かすかを検討し、基礎的学力の不足が見られる全体の15%の学生を意識し、わかりやすいシラバスの作成などの改善策を講じた。</p>
<p>基準Ⅱ－B 学生・教職員に対し、「授業改善のためのアンケート」の主旨説明を改めて行い、意識づけを行う。自由記述欄に工夫を施すなど、回答率を向上させ、より具体的な改善点を示すことのできるアンケートに改定する。結果の閲覧の促しを徹底する。</p>	<p>学生・教職員に対し、「授業改善のためのアンケート」の主旨説明を改めて行った。</p> <p>学生からのアンケート入力に対する教員からのフィードバックを導入し、学生にも閲覧を再三促した。またアンケート項目では自由記述欄を設けたことで、学生からの具体的な聞き取りが行えた</p>
<p>基準Ⅱ－B 「卒業する皆様へのアンケート」の集計結果を教授会で報告し、今後の改善につなげるすべての項目において、「満足」を5割以上にする。（特に教員に関する項目）</p>	<p>2023年度アンケートでは授業内容や教員の対応について77.2%が「おおむね満足」以上に回答したが、「満足」と回答した率は5割以下であった。</p>
<p>基準Ⅲ－A 助教の採用を含めた人材確保</p>	<p>助教2名を採用（2023年4月より）</p>
<p>基準Ⅲ－A オンラインシステムを活用した教員間の連携を図るため、Google drive等の活用も含め、引き続きレベルアップを図っていく。</p>	<p>Google driveの活用をより活発化し、委員会やWGの活動等の情報は常に共有できている。</p>
<p>基準Ⅲ－A ICT化による事務局の業務改善</p>	<p>2023年度より、教員の年次休暇・学外研究活動についての届及び、学生の公休届を紙ベースからGoogleフォームを利用したシステムに変換し、省力化を図った。</p>

<p>基準Ⅲ－B 保育・子育て研究所主催事業として、絵本の部屋を活用し、蔵書の充実を図る事業展開を行う。</p>	<p>卒業生や教職員による「おすすめ絵本紹介」を毎月 2 冊行い、推薦する絵本のポスターを作成し絵本の部屋と部屋前の掲示板、事務局前の掲示板に掲示。当該絵本は 2 冊見本以外に二冊購入し開架している。</p> <p>また、卒業生による紙芝居の実践授業と読み聞かせコンテストを行い、絵本文化の啓発を行っている。</p>
<p>基準Ⅲ－C 学生に倫理面に関する情報教育の一層強化を図る</p>	<p>「情報機器の操作」を必須科目として、近年の情勢をふまえた情報モラル習得の強化を継続して行っている。</p>
<p>基準Ⅳ－A 保育者養成校の全国及び近隣の状況を把握・分析するとともに、2024 年度入試の状況を勘案し、入学定員の見直しの必要性を引き続き検討する。</p>	<p>2024 年度入試：入学定員 250 名、入学試験実質合格率 100.0%、入学定員充足率は 72.0%であった。</p>

令和 6 (2024) 年度改善・対応を要する事項等

改善・対応を要する事項等	要改善・対応内容
基準 I—A 自治体との連携について、協定書締結の必要性を検討する。	高津区との協定書締結について検討する
基準 I—B 卒業生が勤務する幼稚園保育所へのアンケート（人材ニーズ調査） 2024 年度実施に向けた準備作業（アンケート項目の精査、回収率向上のための工夫等を含む）	2024 年度中に、アンケート項目の精査を行い、高い回収率を目指してアンケートを実施する
基準 I—B 非常勤職員に対する SD もしくは FD 研修の実施 基準 I—C 非常勤職員との情報共有・共通認識の醸成 2023 年度より、非常勤教員の問い合わせ窓口としてカリキュラム WG 教員を指名し、対応する。また、同じ科目を担当する専任教員と非常勤教員の連携をより強化し、情報共有を図る。	引き続き、以下の点を徹底し、非常勤教員に対する研修を実施する 非常勤教員の問い合わせ窓口としてカリキュラム WG 教員を指名し対応する 同じ科目を担当する専任教員と非常勤教員の連携をより強化し、シラバス、教科書選定、試験などについての協議、情報共有を徹底する。
基準 I—C 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れるため、高等学校訪問や出張授業の際に聞き取った意見を教職員で共有し、年度末にはまとめて自己点検・評価活動に活用する	高等学校訪問や出張授業の際に聞き取った意見をドライブシートで共有し、入試 WG でまとめ、入試センターと共有、年度末の教授会で報告する。
基準 I—C アセスメントポリシーの運用とその活用 アセスメントポリシーに沿った自己点検を実施し、その活用を図る。	引き続き、アセスメントポリシーに沿った自己点検を行う
基準 II—A 「DP 達成度の傾向」を教員間で共有し、活用する。	「DP 達成度の傾向」を教授会で報告共有する。クラスアドバイザーや実習統括に詳細を伝え、今後の指導に活用する。
基準 II—A GPA 活用手段の強化 同一科目を担当している教員間で、授業態度、課題、試験内容、成績基準等についての共有や確認を行い、GPA との関連を探り、GPA の低下傾向に対策を施す。	引き続き以下の対応を行う 同一科目を担当している教員間において、授業態度、課題、試験内容、成績基準等についての共有や確認 GPA 不芳学生について、クラスアドバイザーを中心に面談を行うなど GPA 向上を含めた総合的支援
基準 II—A コミュニケーション力の育成など汎用的能力の測定についての方法を確立し、測定データを可視化する アセスメントポリシーに沿った自己点検によって、その方法を検討する。前年に引き続き、実習報告による日誌の評価項目（順応性協調性など）をはじめ、既存の評価項目の応用を第一に考え、	引き続き、汎用的能力の測定についての方法を検討する。

測定の方法を確立していく。	
基準Ⅱ－A カリキュラムツリーの運用を開始し、科目間の連携を図りながら授業を展開する。	引き続き、カリキュラムツリーを活用し、より科目間の連携を図る
基準Ⅱ－B 学生の社会的活動の評価を行う方法として、学生のボランティア等の社会的活動に関し、表彰を行うための評価方法等に関して検討し、確立する（前田記念賞に代わるもの）	引き続き、検討課題とする
基準Ⅱ－B 入学予定者の学力水準を的確に把握し、前年度の「新入生の皆様へのアンケート」の結果等も参考に、入学予定者オリエンテーションの内容を精査し、質の向上を図る。	引き続き、入学予定者の学力水準を的確に把握し、前年度の「新入生の皆様へのアンケート」の結果等も参考に、入学予定者オリエンテーションの内容を精査する
基準Ⅱ－B 基礎力リサーチテストを継続して行い、その結果を授業展開にどのように活かすかを検討する。	引き続き、基礎力リサーチテストを行い、その結果を授業展開にどのように活かすかを検討する * 15%の基礎学力の低い学生への対応～より伝わりやすいシラバス作成、課題提出等の指示、小テスト等で授業内容理解不足を早期発見する * 学力モチベーションが低下するグループの存在～退学防止のために別のグループとして、居場所を確保することも考えられるのではないか
基準Ⅱ－B 「授業改善のためのアンケート」の結果の閲覧の促しを徹底する。	引き続き、教員からのフィードバックを行い、閲覧率を向上させる。
基準Ⅱ－B 「卒業する皆様へのアンケート」の集計結果を教授会で報告し、今後の改善につなげるすべての項目において、「満足」を5割以上にする。（特に教員に関する項目）	「授業内容や教員の対応」について「満足」と回答する率を5割以上にするため、FD活動等を通じて教員の意識の向上を図る
基準Ⅲ－A オンラインシステムを活用した教員間の連携を図る。	Google drive やスプレッドシート等の活用も含め、引き続きレベルアップを図っていく。
基準Ⅲ－A ICT化による事務局の業務改善	Google drive やスプレッドシート等の活用も含め、引き続きレベルアップを図っていく。
基準Ⅲ－B 保育・子育て研究所主催事業として、絵本の部屋を活用し、蔵書の充実を図る事業展開を行う。	引き続き、「おすすめ絵本紹介」「紙芝居の実践授業」「読み聞かせコンテスト」を行い、絵本文化の啓発を行う。
基準Ⅲ－C 学生に倫理面に関する情報教育の一層強化を図る	引き続き、「情報機器の操作」を必須科目として、近年の情勢をふまえた情報モラル習得の強化を行う。
基準Ⅳ－A 保育者養成校の全国及び近隣の状況を把握・分析するとともに、2024年度入試の状況を勘案し、入学定員の見直しの必要性を引き続き検討する。	2025年度入学者から入学定員を250名から150名に減員する。2024年5月までに必要な学則変更申請及び届け出の手続きを行う。